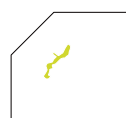


地方で活躍する 駒大卒業生の 皆さん

第21回

輝く卒業生に
Close Up!



何を目指すか

私は今、福島県福島市で市職員として働いています。地元高校を卒業後に駒澤大学へ進学し、大学卒業後に地元へ戻ってきました。

地方から駒澤大学に進学した学生の中には、首都圏での就職を念頭に置かれている方も多くと思います。今回は私の学生史と福島で働くことにした経緯を含め、私の仕事に対する考えを簡単にご紹介します。

私は高校生のとき、管弦楽部に所属しヴィオラを演奏していました。中学生まで音楽とは無縁の人生を歩んでいましたが、部活の雰囲気に魅了され音楽に挑戦することになりました。そうして管弦楽部に所属したはいのもの、いざ楽譜を渡されたときには絶望しました。何もわからん。何かし



福島市役所
政策調整課

朽木 康博さん

福島県桑折町出身
福島県立福島高等学校卒業
駒澤大学文学部
地理学科地域環境研究専攻卒業(2019年3月)

らの楽器経験者がほとんどの中、そもそも音符の読み方など心得ていなかった私はどん底でのスタートでした。先輩や仲間と切磋琢磨しながらの練習は楽しくも、余裕があるものではありませんでした。そんな中でも練習後の雑談や食事、仲間と遊んだ経験はかけがえのないものでした。

私は大学でも引き続き管弦楽をするため、管弦楽団に所属しました。演奏に対し余裕がなかった高校時代とは違い、大学ではその点で余裕が生まれました。そうして、活動の中で演奏のことしか頭になかった矮小な考えから、団の運営にも目を向けられるようになり、幹部学年時には副リーダーを務めました。しかし、当時の管弦楽団は規模が大きかったこともあり、副リーダーの時は常に悩みごとが尽きませんでした。団の財政や演奏会の





運営、指導トレーナーとの各種調整など、多方面から団と向き合い、団員にとって何が最適なのか、日々各担当と暗中模索しながら活動しました。就職を意識する時期にはこのときの経験が礎となり、仕事をする上でも多角的な視点を大事にしたい、それが可能な仕事に就きたいと考えていました。

公務員は、財政、環境、産業、文化など、実に多角的な視点で組織と向き合うことができます。私はその中でも、高校時代仲間とともに青春を過ごした地元福島を支えたいという思いから、福島市役所という職場を選びました。

私はこれまでに二つの部署を経験しています。入庁時は住民税の計算関係の部署に、そして二つ目の現在は政策関係の司令塔と呼ばれる政策調整課に所属しています。政策調整課といってもいまいちピンとこないかもしれませんが、企業や大学との連携に関することが私の主な役割です。つまり、企業や大学と新たな政策事業を行う際の内部調整役です。税金算出と政策の元締め、既に全く別の視点から福島市を捉えるという意味ではやりたかったことができているのかもしれませんが、今は、今後配属される所属を含め、それぞれの立場から福島市民や福島市組織の課題

解決に奮闘する、という経験を雪だるま式に積み上げ、それを生かして福島市を盛り上げていくことを目指しています。

しかし、日々の業務に追われていると、自分が何を目指していたか失念することがあります。そんなときは、日々の業務だけがすべてではありませんので、仕事以外の時間に心をリフレッシュさせることも大切です。私には、音楽鑑賞や旅行、バスケットボールなど、多くの趣味があります。

また、定期的に自分の目指す姿を顧みるようにもしています。そうすることで、仕事に対し及び腰にならずに前向きになれる気がするからです。仕事では受動的になつたらそれ以上の成長は見込めないと思います。自分の目指す姿に近づけるよう、仕事をうまく利用し企図していくことで、自身のモチベーションを維持することが大切だと考えています。

以上、まだまだ社会の波にもまれ足りない若造の意見ですが、頭の片隅にでも置いていただければ幸いです。

